

■ 宮城野の里での支援・活動の内容について ■

4月9日から13日までの期間、宮城野の里へ人的支援に入っていた【ライブリィきぬかけ】(京都)の杉山容子さんにお願いをし、現地の状況や、活動内容、支援に入るにあたっての留意点など、さまざまな情報を教えていただきました。以下、これから支援に入る方はぜひ参考になさってください。

< 4月9日～14日の状況 >

宮城野の里の建物は、余震の影響で駐車場と施設の境目が陥没しています。余震のたびに亀裂が広がっているように思うと、言っておられた方がいました。

到着すると津波被害の実際を見てほしいと、蒲生地区に車で連れて行ってくださいました。一番近い避難所・岡田小学校には民医連の看護師さん・保健師さんが派遣されます。そちらの方はほぼ24時間休めないと聞きました。

◎ 福祉避難所「まるふく」について

「まるふく」とは宮城野の里に置かれた福祉避難所の愛称です。宮城野の里の植ヶアマネージャーさんが福祉避難所の担当をしてくださっています。支援者のコーディネーターは相馬さんという女性です。まるふくはケアハウスの食堂を借りておこなっています。(※右・下段の写真参照) 仕切りのないところにベッドを並べて、そこが利用者さんの生活スペースです。ケアハウスの居室におられる利用者さんもいます。食事はまるふくでされます。浴室はケアハウスの方が使われない時間にお借りしています。

◎ 支援物資

施設のいたる所に支援物資のダンボールが積み上げられています。7日の震度6強の余震の時にはそれらが崩れてきたそうです。物資の整理や、まるふくの利用者が要る物を探すための援助も必要です。

◎ 支援者の身のまわり

支援者も利用者と同じ食事がいただけます。お風呂にも入れます。(ただし、時間に制約はあります。) 停電がなければ、女性は和室の布団で寝ることができます。男性は会議室ですが、布団は貸していただけません。(停電の時は、ケアハウスの方で居室で寝られない方が和室を使用されたので、女性支援者は大浴場の脱衣場で寝たそうです。) 服の洗濯もできます。ただ、利用者さんの衣類やシーツの洗濯があるので、洗濯洗剤はすぐになくなってしまいます。一日中靴を履いているのはしんどい時もありますが、余震で避難すること考えてスニーカーを用意することが望ましいです。歩いてすぐのセブンイレブンは棚が空の部分もありますが、営業していました。



